

## 8. 来シーズンに向けて

### 来シーズンに向けて

監督 萩 井 好 次 (H10年卒)



いよいよ、同志社大学ラグビー部の監督を務めるのも3期目に入ります。指導体制や生活環境など、多くのご尽力を頂いてチームの改革に努めてきました。覚悟を決めてこれまでのプロセスを結実する一年にします。

今年は、FWコーチとして萩原要氏 (H16卒)、S & Cトレーナーとして康翔日氏に加わっていただくことになりました。萩原氏は週末だけになりますが現役に近い立場からチームに関わってくれています。康氏は朝食から夕食まで現役と時間を共にし、ジムやグラウンドでのトレーニングをフルタイムで見えています。同志社に一番必要であった役職に、とても厳しい方がついてくださることになったので、本当の意味で怪我の少ないハードワークに耐えられる体作りができていくことになります。BKについてはここ数年間、指導コーチが大きく変化していましたが、今年度は昨年と同様に佐藤ヘッドコーチ、伊藤BKコーチを中心に強化に努めます。

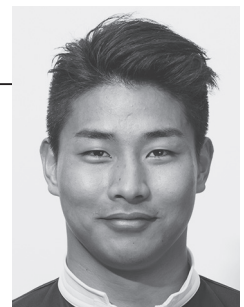
昨年の反省を踏まえて、今年は12月から継続してハードワークを行っています。まだまだ満足度はかなり低いですが、徐々に選手の体もできてきましたので秋シーズンを見据えてギアを上げていきます。学生スポーツは4回生と指導陣の覚悟がチームのゴールを決めます。腹をくくって怪我を恐れずにハードな練習を積み重ねていきます。

先輩方が作ってくださった強い同志社に対してのプライドももちろん必要です。でもそれ以上に今の同志社に必要なのは、「俺たちはこれだけやってきたんだ」という練習に裏打ちされた自信です。自信の塊が『同志社』という言葉霊になります。

一年間やりきります。今年度も、宜しくお願い致します。

### 来シーズンに向けて

新主将 山 本 雄 貴 (3回生・同志社)



平素より、同志社大学ラグビー部に熱いご声援、そしてご支援を頂きありがとうございます。

今年度、主将を務めさせて頂くことになりました、山本雄貴です。

私達、同志社大学ラグビー部は日本一という一つの志に向かって、日々練習に励んでいます。直接相手と試合することがない今の春シーズン前の時期というのは、『チームがチーム自身を』、『一人一人が自分自身と』向き合い、日本一になるには何が必要なのか、何が足りていないのかを自ら考える時期だと思っています。それはチームのことなら、日々の規律の面、グラウンドレベルの意思統一。個人的なことならタックル、パス、キックなど具体的なプレー面、私生活の見直しなど様々な場面に答えがあると思います。そして、その自分の中に出した答えを形にすることが重要だと私は考えます。

私たち同志社大学ラグビー部は、『TOUGH CHOICE』したことを『先に仕掛ける』ことができるチームにするために、『チャレンジャー』であることを常に意識しなければなりません。この三つのことばをキーワードに、日々の練習に励み、そして練習外でも自己管理を徹底した先に、今、一人ひとりの中にあるその答えをチーム全員で形にできると信じています。

そのために一瞬一瞬チャレンジャーであり続け、変革を遂げられるよう、ハードワークを重ねていきたいです。

今後とも、同志社大学ラグビー部に熱いご支援ご声援をよろしくお願い致します。

## 来シーズンに向けて

新副将 服 部 綾 (3回生・東福岡)



応援して頂いている皆様、昨シーズンは沢山のご支援・ご声援をありがとうございました。今期副将を務めさせていただきます、服部綾です。

昨シーズンの同志社大学としましては、デフェンスの部分で食い込まれてゲインされてしまうシチュエーションが多く見られました。

また、オフェンスでは攻めあぐねる事が多く、もっと当て込まなければならなかったです。

しかし、LOの獲得率は去年よりも多くこれからも精度を高めLOMOでも、得点を重ねられるFW作りをしていきたいです。

フィールド面でも、もっとFWがハードワークする必要があると思わされるシーズンでした。なので、今シーズンはチームのビルドアップはもちろん、FWのSC.LOを再度、基礎から練習します。

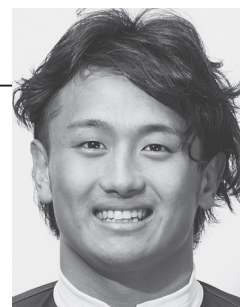
これらを行うに当たって、まずは私生活を確立したいと考えます。使った場所は感謝して片付け、掃除をすることや、挨拶などの当たり前のことを当たり前にして行きたいと考えます。

また、私はラストシーズンなので、今まで怪我で苦しんだ分目の前の試合を1戦1戦勝ちにこだわっていき、互いに切磋琢磨し合えるチーム作りをしたいと考えています。個人的な目標としては、1対1で負けないフィジカルを強化してチームに貢献して行きたいと考えています。

これからも同志社大学ラグビー部に温かいご声援をよろしくお願いします。

## 来シーズンに向けて

新副将 古 城 隼 人 (3回生・修猷館)



今期副将を務めさせていただきます、古城隼人です。2018年シーズンとしましては春夏と結果が出ていたにもかかわらず、開幕3連敗をしてしまい、大学選手権に出場できないという、苦しいシーズンとなりました。

2019年シーズンは日本一という大きな目標に対して全部員170人で覚悟を持って日々の練習や試合に取り組んで必ず結果を出します。そして応援してくださる皆様に恩返しできるよう努力します。引き続きご声援を宜しくお願い致します。

## 来シーズンに向けて

新寮長 田 中 翔 (3回生・長崎北陽台)



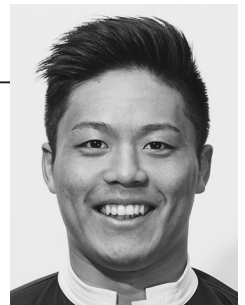
昨シーズンもたくさんのご声援を頂きまして、ありがとうございました。

個人としては自信を持って挑んだシーズンでしたが、関西リーグ2試合目に怪我をしてしまい、チームに迷惑をかけてしまいました。不運なことではなく、ただ自分の力不足だったと思います。チームとしてもOBの方々やファンの皆様、そして私達自身が思うような結果が残せず、本当に悔しいシーズンとなりました。申し訳ない気持ちでいっぱいですが今は前を向いて日々精進していきたいと考えています。

早いもので今年が私にとっての大学最後のシーズンとなります。1年目、私は11年ぶりとなる全国ベスト4を経験することができました。早稲田を破った時、私はグラウンドから見た光景を未だに忘れることができません。多くの観客が涙を流し喜ぶ姿、隣の人声が聞こえないほどの歓声が飛び交っていました。これがもし日本一になったらどんな景色が見れるのだろうと感じました。その目標を叶えられる、私にとっての最後のチャンスです。今シーズンは例年のようなスーパースターは存在しません。しかし、昨年Aリーグに出場した選手が多く存在します。特にFWには経験値が多い選手が残っており期待がかかります。自由なラグビーを展開するには強いFWが必要だと思います。厳しい練習や試練が待っていると思いますが、しっかりと全員でスクラムを組み、一致団結して乗り越えていきます。最後になりますが、今シーズンも沢山のご声援を宜しくお願い致します。

## 来シーズンに向けて

新寮長 原 田 健 司 (3回生・修猷館)



今年度寮長を務めさせて頂くことになりました、原田健司です。

いつもご声援・ご支援を頂きありがとうございます。

昨シーズンは、関西リーグで思うような結果を出すことが出来ずに、シーズンを終えてしまいました。2年連続、大学選手権へ出場することができず、とても悔しい思いをしました。

同志社大学ラグビー部に入学して大学選手権に出場したのは私が1回生の時だけでした。応援席から見る先輩方の4年間の想いがこもったプレー、試合会場の雰囲気、声援、勝って喜ぶ姿、負けて泣いている姿、何もかもが今でも心に焼き付いています。とても強い先輩方でも「日本一」という目標を達成することはできませんでした。関西リーグのレベルも非常に高く、本当に数少ないチャンスを掴まなければ成し遂げることはできない「日本一」。今年こそはキャプテンの山本雄貴を中心に絶対に成し遂げたいと思います。

最上級生となり、チームの様々な面が見えるようになりました。このチームを良くも悪くも変化させることができるのは、4回生の力だと思っています。逃げることなく、自分たちの目標に向かって日々練習に励みたいと思います。

また、個人としては3年間、秋のリーグで思うような結果を出すことができていません。最後の1年、

自分自身を見つめなおし、本当にチームにとって必要不可欠な存在になれるよう、もっともっと強くなり、チームを引っ張っていけるように頑張りたいと思います。

絶対に結果を出して恩返しができるように頑張ります。今年も応援よろしくお願いします。

## 来シーズンに向けて

新主務 岩本海斗 (3年生・山口)



今年度、主務を務めさせていただきます岩本海斗と申します。

私は来年度「選手がストレスなく、自分自身の能力向上のため直向きに努力できる環境作り」をします。そのために私自身が選手、スタッフ、社会人スタッフの架け橋となり、さまざまな問題解決に取り組んでまいります。我々は体育会であり、ラグビーをスポーツとして楽しむとともに勝利を追求する使命を持っています。時が不可逆的に流れていく中で一時も迷っている暇はありません。「感即動」という言葉にもあるように日々センサーをオンにし、感じ取ったこと、考えたことを実践し継続し、積み上げていく、これを大切にしたいと思います。また発明家のエジソンは「失敗などしたことはない。うまくいかない方法を1万回見つけただけだ。」と残しておりますが、チャレンジしない限り新しい技術や能力を手にはできません。同志社大学体育会ラグビー部がこれからも繁栄していくにはチャレンジし続け新しい道を探し続ける必要があると考えています。勝つためにも勝ち続けるためにも成長を追求するチャレンジをし続け直向きに努力する、このことを持ち続けたいと思います。

以上2つのことを初志貫徹して、捲土重来を期します。